

調査研究代表者氏名 : 足立 雄一

1. 評価軸別の評価

大変優れている(5点) 優れている(4点) 普通(3点) やや劣っている(2点) 劣っている(1点)

	5点	4点	3点	2点	1点	平均点
(1) 環境保健対策の推進への貢献度	1人	3人	2人	0人	0人	3.8
(2) 研究成果目標(目的)の達成度	1人	3人	2人	0人	0人	3.8
(3) 研究計画の妥当性	1人	2人	3人	0人	0人	3.7
(4) 内容の独自性	0人	6人	0人	0人	0人	4.0
(5) 社会・経済に対する貢献度	0人	4人	2人	0人	0人	3.7
個別評価平均						3.8

2. 総合評価

(1) 評価基準に沿った評価	1人	3人	2人	0人	0人	3.8
(2) 記述評価						
<p>・このプロトコルでの研究はこれが限界ではないか。これ以上の研究継続は再考の余地がある。PM2.5と黄砂の基礎的データが出てから再度、研究を再開するのによいのではないか。</p> <p>・家計(収入)が高いと影響を受けやすいという傾向など、調査結果の解釈について、例えば日常生活やコントロール状態、薬物治療などとの関連性を含めて踏み込んだ検討が対策の具体化に必要だと考えられる。</p> <p>・黄砂曝露が短期的に喘息発作の発現頻度を高めるという結果だけでは、研究結果の社会的貢献という観点からは、十分とは言えない。発表にもあった、長期の影響等の解析方法等、もう少し示して頂きたい。</p> <p>・重要な研究である。</p> <p>・短期だけでなく長期の経過評価を期待する。</p> <p>・臨床を含めた更なる詳細な分析を望む。</p> <p>・PM2.5発生源としてのタバコ煙の関与を考察することが必要である。</p> <p>・大気汚染物質への短期曝露影響の調査手法として期待できる研究を行ったものと評価できる。</p> <p>・短期的なアレルギー・呼吸器の自覚症状に関連する要因は個体要因や環境要因など多数あると考えられることから、それらの要因とアウトカムとの関連性の有無や関連性の大きさについて、PM2.5の影響と合わせて示すことによって、結果の頑健性を適切に議論すべきである。</p>						